

民族を越え広がるフィジーの在来嗜好品・カヴァ

大島 崇彰

オセアニア島嶼地域には、カヴァという嗜好品が広く普及している。カヴァとは、同地域で栽培されるコショウ科の灌木であり（学名：*Piper methysticum*）、その根を原料とする飲料は嗜好品として古くから飲用され、この飲料自体もカヴァという名称で知られている。カヴァにはアルコール分は含まれていないが、カヴァラクトンという成分が含まれ、飲用すると特有の酩酊感をもたらされる。伝統的な儀礼などの際に、もしくは数名から数十名規模の宴席の場で参加者同士が会話を楽しみながら飲用することが多い。個人的な感想を言えば、味は土っぽく舌や喉が痺れたりして決して美味しいものではないが、飲んでいるうちになんだかいい気分になるのは確かだ。本エッセイは、メラネシアのフィジーにおいて、民族を越えた広がりを見せるカヴァの飲用や生産・流通活動をめぐる動向に焦点を当て、その一端を紹介したい。

さて、カヴァはこれまで先住系フィジー人の伝統的な飲料として知られており、儀礼においては象徴的な意味合いを持つほか、日常的にも老若男女問わず広く飲用されてきた。他方で近年では先住系フィジー人以外の民族の飲用も広く知られるようになった[e.g. Mohanty 2017]。その中でとりわけ多いのがフィジーの人口の約4割を占めるインド系フィジー人の飲用である。筆者は2022年の調査中、首都スヴァでインド系フィジー人が経営する民泊に滞在したのだが、週末になるとその家族・友人たちのカヴァ飲みによく誘われた。近所の商店で売られている小分けの茶色の紙袋に入った粉末のカヴァを買ってきて、プラスチックのバケツの中で水に溶かし、ココナッツの殻でできたカップで掬い、皆で順番に飲むというのが彼らの飲用スタイルだった（写真1）。もちろん一概には言えないが、筆者が主な調査地としている先住系フィジー人の村落と比べると、都市部のインド系住民の飲用の頻度や一度に飲む量は比較的少ない印象だ。彼らはカヴァをたくさん飲むのは健康に良くないと考えているのだ。とはいえ、週末に知人を招き、カヴァを飲むのは都市部に住むインド系フィジー人たちにとって馴染み深いことのように、彼らの文化として一定程度浸透している様子であった。



写真1 スヴァの住宅でのカヴァ飲みの様子（2022年9月24日、筆者撮影）

そして換金作物としてのカヴァの生産及び流通の領域においても、インド系フィジー人の存在感は大きい。カヴァは元来先住系フィジー人が居住する村落内での自家消費を目的に栽培されてきたのであるが（写真2）、近年では換金作物としての栽培が広まっている〔Prasad and Raj 2006〕。統計上栽培を行っている農家の多くは先住系フィジー人なのだが、大規模なプランテーション経営、収穫されたカヴァの加工、市場への流通などを行っているのは、主にインド系フィジー人である〔e.g. Murray 2000〕。筆者の調査地であるフィジー第2の島ヴァヌア・レブ島ザカウロベ州の地方村落においても、先住系フィジー人たちが畑地で栽培したカヴァを、インド系の仲介業者がまとめて買い取り、洗浄や裁断などの加工をしたのち都市部に出荷していた（写真3）。カヴァの換金作物化の拡大の背景にはインド系フィジー人を中心とした生産・流通システムの確立があることが窺える。こうしたシステムの確立は村落部に1つの現金獲得手段を提供した一方で、売買価格をめぐる、仲介業者の采配により決められる部分が多い。農家の中には、そうした状況に多少の不満を持つものも見られる。カヴァの換金作物化の拡大が現地の社会関係にいかに関与するのかという点は、私自身の今後の調査の課題となる。



写真2 先住系フィジー人農家がカヴァを栽培している農園（2022年10月5日、筆者撮影）



写真3 インド系フィジー人の仲介業者のカヴァ加工場。手前に近隣の農園で収穫されたカヴァが積みまれている（2022年10月16日、筆者撮影）

ここまでインド系フィジー人とカヴァの関わりを紹介してきたが、フィジーに住む中国系住民とカヴァの関わりも注目すべき点である。そもそも遡れば、1930年代にはすでに中国系住民がカヴァの栽培を行い、スヴァの市場で売買をしていたとの報告もある [Prasad and Raj 2006]。残念ながら、筆者自身は中国系住民がカヴァを栽培しているという話はまだ実際に耳にしていない。しかし筆者の調査村落から最も近い都市であるサブサブでは、乾燥させたカヴァを機械で粉末にするパウンディング工場が中国系住民によって経営されており、近隣のカヴァ農家がカヴァを持ち込む姿も見られた。中国系住民とカヴァの関わりに関するさらなる情報や、そうした動向が先住系フィジー人にどのように捉えられているのかなど、今後追加の調査が必要となる。

参考文献

- Mohanty, M. 2017 “Fiji Kava: Production, Trade, Role and Challenges.” *The Journal of Pacific Studies* 37(1): 5-30.
- Murray, W.E. 2000 “Neoliberal Globalization, ‘Exotic’ Agro-exports, and Local Change in the Pacific Islands: A Study of the Fijian Kava Sector.” *Singapore Journal of Tropical Geography* 21(3): 355-373.
- Prasad, N. and S, Raj 2006 “The Perils of Unmanaged Export Growth: The Case of Kava in Fiji.” *Journal of Small Business & Entrepreneurship* 19(4): 381-393.

(おおしま・たかあき 東京都立大学大学院)